

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人 寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は田園地域であるため、季節に応じいろいろな景色を見ることが出来る。コロナ禍で思うようにドライブや家族との交流も出来ない中ではありますが、施設内で行える行事等を積極的に取り入れ、今は枯露柿を作って季節を感じています。お馴染みのカラオケも行い楽しく過ごしています。併設の特養とは一緒に行事を行い交流も図れています。看護師も常住している為、安心して日々の送ることが出来ます。早くコロナが終息し日常を取り戻したいと入居者も職員も願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山が見える静かな田園の中に位置している当時業所は、交通の便もよく、家族が来所しやすいぬくもりのある事業所です。地域密着型の特別養護老人ホームと併設しており、看護師の常駐と夜間のオンコールが可能となっており、急変時の対応等安心できる体制になっています。また在職歴の長い職員が多く、利用者への落ち着いた環境が整っています。特養との合同の行事も行われ、利用者の楽しみになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、職員全員が実践できる様にホワイトボードに掲示し共有している。ユニットミーティングでは全員で確認している。	玄関に法人全体の理念が掲げられ、それとは別に、日々の目標として「元気に明るく」との目標が立てられ、出勤時に確認できるようユニットのボードに書かれ、職員全員で共有しています。また月1回の職員会で理念や目標を確認し合い支援に活かしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流はしていない。	自治会に加入しているが、現在は具体的な交流はしていません。コロナ前はオレンジカフェを実施していたが、今後は感染状況を見て再開できることを願っているとの話が聞けました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍なので、地域の方々との交流がなく、ここの一年貢献は出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催出来た会議では、情報交換も積極的に行われ、そこで出た意見はサービス向上に活かしているが、現在まで開催は出来ていない 予定としては、コロナが落ち着いていれば、本年度内で一回開催したいと考えている。	コロナ禍で定期的な開催は行っていないが、今年中に1年分の活動内容や状況報告をまとめ、会議の参加メンバーに郵送する予定であることを確認することができました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、認知症を考える検討会等の会議もなかった為、交流は出来ていない。	市役所等に出向き、情報(空室状況 活動内容等)を伝えたり、法的な相談等密に連絡を取り合っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の施設内研修に参加し理解し実践に活かしている。	玄関の施錠はしていないが、ユニットの施錠は危険回避のため時間を決めて行っており、入所時、本人や家族に伝え承諾を得ています。法人全体で身体拘束の弊害を理解し、拘束を行わないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、法人内での現状報告をしながら注意し防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行うことで、理解し支援しているが、コロナ禍で研修が中止になる事が多く紙面や、ビデオなどで理解し学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明に努め、家族の不安疑問点はその場で理解してもらえるように極力努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会が開催出来ない為、ガラス越し面会や電話があった時には、近況を伝えながら要望を聞くようにしている。	コロナ禍で直接家族との話は出来ないが、電話やライン電話、ガラス越しの面会時等に要望を確認しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回は必ず施設長と面談する機会があり、意見や提案は伝える事が出来ている。ミーティング時にも意見などは聞き入れている。	年1回施設長との個人面談があり、意見や要望を伝えることができ、月1回の職員会でも法人の次長や施設長の参加があり、意見を吸い上げています。備品等の購入もスムーズに行われています。現場と法人運営側の相互の意向で記録のIT化が行われ、昨年より実施されているとの話も聞けました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与もあり、年長勤務者への表彰も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は現場に入っている為、日々の業務の中で力量を把握して指導している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、外部研修は参加できていない。グループホーム協会のリモート会議に参加し交流する機会は何回かあった。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら必要に応じ、要望を伝えられる入居者はいるが、殆ど入居者は、日常の会話から不安な事や要望を聞き取り信頼関係を築くよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境の中で安心して生活していける様に、不安なこと心配なこと困っている事を丁寧に傾聴し信頼関係を築くよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が主となり、カンファレンスを行い、ニーズに合った対応が出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、入居者に寄り添い、入居者同士もコミュニケーションが取れる様信頼関係を築いている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、直接顔を合わせる事は中々できないが、電話があった時やガラス越し面会に来苑された時に近況報告をすることで情報共有し信頼関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する事が厳しい中で、以前出掛けた時の話や、写真などを見ることで思い出している。	コロナ禍前に訪れた場所(花見スポット アジサイ寺 河口湖ハーブ園等)の写真を見て会話したり、中庭に出て併設の特養の顔なじみの利用者と話したりカラオケを楽しんでいます。また家族の意向で利用者を散歩に誘い、遠くからではあったが車の中の家族に合う等工夫もされています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に支えあえるような支援に努めている	入居者同士が気遣いながら、日常生活を過ごしている。押し車の方が食席に近づいて来ると椅子を引いてくれたり、急に立ち上がったりと声をかけてくれたりとしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型なので、顔を合わせる事もあり、利用時の関係を大切にしている。困ったことがあればいつでも相談にのれる様に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が日々の生活の中で意向を把握し介護支援専門員に相談報告し、担当者会議を開催し支援している。	普段の会話や声掛けの反応から、意向や気持ちが安定しているか確認しています。又アプローチを工夫し意向を探り、職員全員で試行錯誤しながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴を提出して頂いたり、訪問調査で丁寧に聞き取りをして、今までの生活を把握するよう努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護ソフトを利用している為、出勤時にケース記録を見ることで現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングで課題を上げ、担当者会議を行うことで、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の職員会議で定期的なモニタリングを行い、そこでの課題によって再度、看護師やPTを含め担当者会議を行い、関係者全員で情報共有し、介護計画書の作成につなげています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットを上げることで事故に繋がらない工夫も行い、介護計画の見直しに活かしている。24時間シートを利用することで情報旧友は出来ている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署・他職種と連携を図り、臨機応変な対応が出来る様に努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティア活動が出来ていない為、地域資源の活用が出来ていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続しても良いが、現状を説明し変更し納得出来るようであれば変更してもらい、以降の受診や往診を適切に受けられる様に支援している。	入所時、協力医について説明し(往診 看取りの対応等)家族の意向を確認しています。現在は協力医が主治医になっている利用者がほとんどです。受診は基本家族対応だが、状況によって職員の付き添いもあります。情報は、書面で家族から詳しい内容が主治医に伝えられ、連携が密に取れています。受診困難な状態になった時は往診に切り替え、家族へ迅速に情報が伝えられる体制になっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養がある為、看護師が常駐しているため、いつでも相談できる体制にあり、主治医に繋げている。夜間も、オンコール体制が整えられている。場合により訪問看護が入った時は情報共有し支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の病院が近隣にあり、病院関係者との信頼関係も厚く情報交換で来ている。相談にも直ぐに対応してくれている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し理解してもらっている。重度化した場合や終末期についても、他職種や主治医と連携を図りチームで支援している。	入所時、看取りの指針を説明しています。重度化した際は、往診時に主治医から家族に状況説明があり、事業所で可能な支援内容を伝えていきます。刻々と状態が変化する利用者に対する家族の思いに寄り添いながら、温かいケアを行っています。又、利用者の部屋のドアを開け、のれんにし、さみしくないよう他利用者の日常の音が聞けるよう配慮したり、感染状況を見て家族の泊まり込みも可能にする等手厚いケアを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修もコロナ禍で中止なることが多く、訓練は行えていないが、急変時や事故発生時はマニュアルに従い対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として、年二回の訓練を予定しているが、コロナ禍で実施できていない。11月30日に水害を想定して訓練を行う予定になっている。	防災訓練は年二回(消火訓練 夜間参集連絡網訓練)行い、消防署職員による座学も行っていきます。火災時の訓練の際には、利用者全員中庭に非難する訓練が行われています。ハザードマップによると水害地区になっているため、隣接する本部三階に非難する計画が立てられています。		火災時等、地域の方の協力について再度確認し、明確な協力体制が構築されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内でも接遇については毎年研修し、入居者の尊厳を守り丁寧な言葉かけに努めている。	人生の先輩であることを意識し、方言を使いながら節度ある呼び方や、声掛けを行っている。浴室のカーテンを二重にしたり、居室やトイレのドアを必ず閉めるなどプライバシー保護に努めています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や、ふとした行動から本人の思いや要望を受け入れ、自己決定出来る様に心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごされているが、時には職員の方から誘うこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は自ら更衣されているが、出来ない方でも、家族にもその人らしい洋服を持って来て貰っているの、どちらが良いか選べるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中々一緒に調理を行うことが出来ていないが、配膳や下膳・テーブル拭き等の出来ることをしてもらっている。コロナ禍なので、職員は食事介助時にフェースシールドをつけているので、現状は一緒に食事を摂ることはしていない。	TVや新聞から利用者が食べたいもの(寿司 外注の弁当 出前等)をリクエストし、献立を変更したり、行事食(おせち料理 クリスマスメニュー ひな祭り お彼岸 敬老のお祝い膳等)の提供をしています。食事の準備は野菜の下ごしらえや和え物を混ぜたり、厨房に入って手伝うこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が法人に在籍している為、高齢者にあつた献立を立てているので栄養バランスは取れていると感じている。夏場は特に水分補給に注意し、水分ゼリーなどを利用し確保している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアをしてもらっている。毎週木曜日は歯科医が介入していて、殆どの入居者が利用し口腔内の清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けを行いトイレ誘導出来ている。夜間帯にオムツを使用している方も、日中はリハバンで対応している。	利用者すべての排泄パターンを把握できているため、さりげない声掛けでトイレ誘導しています。又、排泄が自立している利用者の排泄確認も工夫して対応しています。できるだけトイレでの排泄がスムーズにできるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日14時になると館内放送でラジオ体操が流れる為、参加できる方は職員と一緒にやっている。PTも月に一回定期的にユニットを訪問し見てくれている。主治医の指示のもと、三日排便がない時は薬で排便コントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	毎日入浴できる体制ではあるが、声掛けを行っても拒否する方もいるためタイミングがつかめない時もある。	週2回を目安に、毎日入浴できる体制になっています。入浴を嫌がる利用者には、時間や曜日、職員を変えながら入っていただいています。浴後の補水の種類を多く取り揃え、楽しんで飲んでいただいています。季節風呂はゆず湯等を実施したり、浴室で歌を歌って楽しむこともあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯もセンサーマットを利用しながら安心して休まれるように状況にあつた対応をしている。眠れない方は、主治医に相談し就寝薬を処方してもらえよう繋げている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常服に内服説明書がユニット内にある為、疑問に思った時にはすぐに確認している。服薬支援は法人のマニュアルに沿って行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけたり、パズルをしてみたり、全員でカラオケを行ったりしている。コロナ禍で中々ドライブに出かけることが出来ていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が思うように出来ない。中庭に出て気分転換を図っている。	中庭でお茶を楽しんだり、レクリエーションをすることもあります。玄関先のベンチで外気浴をしながら景色を眺めたりもします。皆既月食には外に出て、珍しい天体ショーを楽しむことができたとの話が聞けました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は入居時にお金は持ってこないようにしている。希望があれば預り金がある為、そこから出して本人の希望に添うことができている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいるため、充電は職員が時々確認している。使用は制限していない為、いつでも使うことが出来ている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの壁を使い、季節感のある風景を工作し飾っている。家族からお誕生日のお祝いに鉢植えや花束が届けられたりするので、居心地よく季節感を楽しんでいる。	ホール全体を見渡せる場所に厨房があり、音や匂いもわかり、家庭的な雰囲気になっています。天井も高く開放感があり、窓も大きく十分な光が入ってきています。壁には利用者が職員と共に制作した季節ごとの壁画が飾られ、利用者個人の作品も丁寧に展示されていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方はマイペースで居室内で過ごされている。TVの前のソファに座り、入居者同士会話を楽しんでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使っていた家具等を入れてもらい、使い慣れたお茶碗・箸・湯呑みも使うことで家庭の延長として生活できる様支援している。	大きな窓があって明るい部屋になっており、TVや使い慣れた家具も置かれていて、位牌を持参される利用者もいます。家族の写真や作品も飾られ、居心地の良い部屋になっています。窓から富士山が見える部屋もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットが施錠できる態勢ではあるが、ユニットから自由歩行し出られてしまっても、併設の特養のスタッフとも顔なじみなので迷うことなく生活出来ている。ユニット内や廊下等も段差がなく安全に過ごせている。			